

本校における家庭学習の一考察

足利市立毛野中学校教諭 岡田 明男

1. はじめに

わたしたちは、毎日毎日の授業という実践のなかで、きょうの授業はよくできたとか、どうもうまくいかなかったということを口にしていないだろうか。教師の熱意や努力の不足という点もあるが、そのこととともに、生徒自身が自主的、主体的な学習を進めようとする意欲が欠けていたりして、その結果として、教師に依存しがちな、他律的、おしつけ的な授業になっていることもある。

その欠陥を除去するためには、第1は、教師自身の学習指導法の研究であり、第2は、学習の主体者である生徒自身の学習にとり組む主体的な態度形成の研究である。そしてこの両者は、互いに有機的関連をもっている。

だが、ここで、第2の学習態度形成について考えてみると、とかく態度については、日常学習活動の副産物的扱いになっており、教師は、各教科の目標にある態度については、任務と自覚に基づくゆえに対策を講じているが、各教科に共通なもので、指導目標とされていないような一般的態度については、どの教科からもとり上げられていないという傾向がある。ときおり、学級活動、極端には家庭のしつけや個人の責任に転嫁されることもある。とかく、散発的な指導が多く、学校として意図的に家庭で学習しようとする態度を形成することに関しては、指導が少ないのが現状ではなからうか。

そもそも学習態度形成の目的は、知識・技能の習得の過程で、その学習の内に自分自身のあり方を向上させようとするものでなくてはならない。それは、継続性のある主体的学習態度、または、日々の生活のなかにおいて、自己を更新していく生活態度ともいえる。

このことは、学校のみならず、家庭をも含めてのものであるべきである。そこで、家庭における学習という面を見ると、

- (1) 継続的の観察学習 (2) 宿題 (3) 復習・予習 (4) 自主的学習

等が考えられるが、本校では、特に(4)の自主的な学習態度形成に焦点をしぼってみた。

2. 態度形成に関する一般的要因

授業のねらいは、生徒ひとりひとりを主体的に、自主的・自発的に活動させることにある。その方法として、「個別化」と「集団化」とがある。

ここでの集団化は、生徒をして主体的に授業にとり組ませるためのもので、集団学習、集団としての望ましい資質ということにある。その集団への参加ということになると、学習態度との間には密接な関係があると思われる。

望ましい学習態度を形成する要因として考えられることは、

- (1) 模倣ということであり、それは、身近な人々の態度を模倣し、長ずるにつれて、権威者や仲間や社会に影響されるという傾向のものである。
(2) 話し合いということである。話し合いのなかで刺激を受け、必要感を感じるというものである。

(3) 反復練習ということで、最初は苦痛であったり、抵抗を感じていても、同一経験を何回も反復して行なっていると、いつかそれが習慣化するというものである。いつかそうしなくては行かないという傾向を生じるもので、家庭での学習をする態度、学校での授業中の発言という型での参加の態度、教師の話の中から要点をは握しメモする態度など、くり返しているうちに身につくというものである。

(4) 劇的な情緒的経験からくる態度である。これは、条件反射ということで説明され、条件づけと利用して悪い態度を除去するというものである。

(5) 意図的努力からくるところの態度形成である。学校から帰宅後一定時間ある教科を必ず勉強するというようなものである。それには、その態度価値をじゅうぶんに理解してからその形成に着手し、次いで、強い意志をもって実行し、例外を認めないというものである。

以上、要因的なものを考えてみたが、どのようにして望ましい資質態度を教育的に練習していくかが問題である。このことは簡単にできるものではなく、教科一般での知識、理解、技能などの評価の観点と異なって、態度形成についてはこれといった決めてがなく、家庭学習についての方法は暗中模索の状態である。

そこで、本校としては、まず、全教師の共通理解の上に立って、望ましい家庭での学習態度と習慣形成について学習の主体者である生徒に理解させるため、さきに述べた5つの要因を考えて実行できるよう動機づけている。

3. 本年度における実践

昭和42年度においても、毎年のように、学校の重点目標としてとり上げられているものに学力向上対策がある。

では実際にどうしたらよいかということになると、種々対策が話し合われたが、これとって速効性のあるものは見当たらなかった。やはり、本地域の実態のは握に基づき、生徒の特性を見きわめようと、生徒、教師、保護者に実態調査のアンケートを出した。

それによると本学区の実態は、「学校要覧」に次のようにまとめられている。

(1) 学区の特色

本学区は、戸数約1800戸、うち40%は農業、20%は工業、残り40%は商業その他で、かつては純朴な農村であったが、都市の拡大発展にともない、市街地に隣接する西部山川地区から東部へと次第に商工業化、都市化の傾向を示している。

ものの見方、考え方については、一般に西部が進取的・積極的であるのに対し、東部はやや保守的である。

家庭教育に対する考え方の特質としては、

ア 農家・非農家を問わず、毎日仕事に追われ、子どもとゆっくり話し合うゆとりがない。したがって、いきおい学校依存の傾向が多い。

イ 家庭におけるしつけ教育は、じゅうぶんに行なわれていない。

(2) 生徒の特質

本校の生徒は、すべて同一小学校卒業ということで、入学当初から、生徒が顔をなじみであり、よい意味での競争意識に欠け、ひいては、あらゆる面で消極的になってしまいう傾向すら見られる。学習の面では、

ア 一般に、学力が低く個人差が大きい。

イ 自主的・積極的な学習意欲や態度がじゅうぶん身につけていない。とくに、家庭学習が低調で、宿題が出ないとやめてこないし、また、出されてもやろうとしない傾向すら見られる。

行動の面では、

ア 明るくのびのびしているが、ことばづかいが悪く、一般に態度が粗野である。

イ 最後までがんばり通すねばり強さに欠けている。

ウ 従順で、いわれた仕事はよくやるが、消極的で、思っていることをじゅうぶん言動に表わせない生徒が多い。

ということから、(1) 教育目標 (2) 教育の方針 (3) 本年度の努力点、具体策の中にも随所に関連事項の明確化した系統性が見られる。

(1) 教育目標

- ・ 自他を敬愛し、たがいに協力しあう生徒を育てる。
- ・ 心身ともに健康で、品位のある生徒を育てる。
- ・ 責任をもって仕事にうちこむ生徒を育てる。
- ・ 進んで勉強する生徒に育てる。

(2) 教育の方針

ア 教育のあらゆる場に共同学習や共同作業の機会を多くもち、自他の特性を認めあい、尊重しあいながら、みんなとともに伸びていこうとする態度を育成する。

イ 略

ウ 自己の言行に責任をもち、社会生活に適応できる生徒を育成する。

エ 略

オ 生徒の発達や実態を適確には握し、それに即応した基礎的能力の向上をはかるとともに、自主的・自発的に学習し、最後までがんばり通す習慣や態度を養う。

(3) 本年度の努力点・具体策

努力点	具 体 策
1. 自主的・積極的な学習態度の育成	1. 学級活動や学級指導を通しての学習指導の充実 2. 学習の手びきの改善と活用 3. 質問の奨励 4. 生徒の自己診断・自己評価の指導 5. 家庭学習のしかたの指導(結果の確認)
2. 能率的・効果的な指導法の研究と実践	1. 充実した50分の授業の展開 2. 学習指導の個別化の研究と実践

3. 4. 5. 6. (略)	
7. 生徒指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> 1. (略) 2. 個別指導の機会を多くもち、生徒の悩みについてじゅうぶん指導する。 3. 家庭や関係機関との連絡を密にし、生徒の健全な発達をはかり、問題生徒の早期発見と指導につとめる。 4. (略) 5. 教室相談室の活用

そこで、本年度の努力点1. その具体策の5に焦点をしばってみた。しかし、そのみという単独性のものではなく、特に、努力点2のその具体策6とも有機的関連をもたせた。

以上の点を説明するために、次のような具体的な指導を行なった。

- (1) 教科におけるどの分野に自己の落ちくぼみがあるかを発見させるために診断テストを実施し、その結果についての指導を行なった。

そのために、生徒に診断プロフィールやダイヤグラムを書かせることにより、

ア 5教科(国・社・数・理・英)の中で、特に落ちくぼんでいるものを具体的に認識させる。

イ 教科内においては、どの分野に落ちくぼみがあるかを知らせる。

そのことにより、学習のめやすを立てさせ、その補充を家庭で継続させることに重点をおいて指導した。

- (2) 家庭での学習状況調査をすることにより、家庭環境を構成している項目(例えば、子どものための勉強室、学習机の有無、参考書、子どもへの心遣いなど)をは握した。

調査によれば、生徒の家庭そのものもいちようでなく、学習環境もしつても徹底しているものではないことがわかった。だから、家庭学習といえは、とかく宿題とイコールぐらいにしか、また、受験を目前にすれば勉強するという程度しか考えられていなかった。

そこで、今後の家庭学習の指導指針を樹立した。

ア 学習環境を整えるよう保護者に協力を願った。

- ・ 机、本立てをそろえてやる。
- ・ 学習室を与える。不可能ならカーテンでしきってやる。
- ・ 学習についての相談相手になってやる。
- ・ 両親は、なるべく子どもの話し相手になってやる。

イ 生徒には、しっかりした生活意識をもたせるようにした。

- ・ だれにも言われなくとも、毎日必ず机に向かう。
- ・ その日学校で学んだことは、必ず復習する。
- ・ 自分のことは自分でする。
- ・ わからないことがあるときは、家の人に相談相手になってもらう。

- (3) ひとりひとりの学習の充実ということより、「学習の記録・家庭生活の記録」を毎日とらせる

ことにした。それは、前述の態度形成の要因の(3)のことと関連して、記録をすることにより、初めはやっかいてもめんどりでも、いつか習慣となるということ、とにかく一定時間学習しなければならないという努力がもたらすところの態度形成によって、学習に対する意欲づけが少しでもできるのではないかと感えた。

そこで、本年度は、家庭学習の実態ならびに生活のようすを知るという調査を兼ねて、1学期の間は職員研修の場で企画し、検討し、2学期から実施にふみきった。

(別表1)のような記録を提出するに当たって、父兄に自分の子どもの実態をは握させ、認識を深めさせるという意味で検印をお願いした。

記録表は、毎週週の初めから終わりに担任に提出し、次週用の紙を引きかえにもらうというシステムで行なわれた。

ア 個人指導の場では、次のような指導の観点をたてた。

- ・ 家庭学習の時間の確認
- ・ 学習準備の有無の確認
- ・ 教科の学習時間のとり方
- ・ 課題学習との関連
- ・ 生活の記録による実態のは握と指導
- ・ 読書指導
- ・ テレビの影響と生活指導
- ・ 就寝時間と学習時間
- ・ 学習条件(クラブ、塾など)

イ 集団指導の場では、次のような指導の観点をたてた。

- ・ 望ましい家庭生活の改善
- ・ 家庭での計画的余暇の利用法
- ・ 効果的な家庭学習とその方法
- ・ 課題学習との関連
- ・ テレビの見方と内容の規定
- ・ クラブ活動と家庭学習

以上のことにより、協議や話し合いにより望ましい傾向を知り、自己をかえりみて模倣しようとする気持を起こさせることができる。

また、机間巡視の際、生徒個人との対話や発問の中でふれたり、ときには相談室を利用したりして励ましを与えた。

家庭との結びつきや連携という点で、検印のみならず、親と子と教師の三者懇談という型の中にこの資料を活用し、望ましい家庭学習への習慣形成助長をはかることにもつとめてきた。

また集団の場としては、保護者にその趣旨の徹底をはかり、ときには提出された資料により、学級平均や、学習量の最も多い生徒の平均時間や、テレビの平均聴取時間などを示すことから、身近に生活全域をとおし、わが子を謙虚にとらえる場を設けようとしてきた。(別表2)

4. 来年度の課題

昭和42年度においては、どちらかという実態の調査に重点がおかれ、結果をより適切に利用し助長するという配慮にはやや欠けていたので、今後問題を残している。家庭学習を学力向上対策の一連のものとして考えるなら、次の4つの支柱の上で計画、実践化をはからねばならない。

- (1) 四領域その他との関連の再検討
- (2) 診断テスト及びその他のテストの実施（学習における落ちくぼみの発見と、追跡調査を実施してその学習の定着度をみることなど）
- (3) 宿題のくふうと自習時間の活用
 - ア 生徒の個人差に応じての宿題と、それを次の時間において、能力差をいかしていかにかに指導するかの研究
 - イ 教師個人の理由により、急に自習となるとき、生徒自らの手によるその教科の有効的学習方法
- (4) 家庭学習の振興

学力の向上をはかる根幹は、何といたっても毎日の授業であり、その授業は、学習内容を中心とする教材論的な側面と、学習場面を構成する人間関係（個人の集合体）との複雑な関係の上に成り立っている。そこでは、教師自身の反省とともに、子どもに対しては、教材が興味や刺激を与えるものであり、しかもそのうえ、個人的能力差に応じてのものでなくてはならない。このことについて、ブルナーは、「学習する教材そのものに興味をもつことこそ、学習に対する最もよい刺激である。」といている。

個々人の能力を伸ばすには、学習の場において今までの受動的な型から、自ら進んでやるという能動的な型に移行する素地をどのようにして作ってやらねばならないか。それには(3)の事項での課題学習とならんで、どんな子どもでも自分の学習したことが授業にとり上げられ、ときに学習してきたことが検討され、修正され、承認されるという学習結果から授業も活気に満ちてくるし、やるぞという動機づけも促せる。それは、自我拡充の欲求ということだそうであるが、それを熟させるためには、授業のコミュニケーションが生徒への教師からの一方的教示的コミュニケーションで終わらせたくない。それは、水道・テレビ・ラジオ的なものであり、一方通行である。そこには、意志の疎通もありえないので、電話型式の教示と教導のコミュニケーションの方向にもっていかなくてはならない。

そういうことをふまえて、来年度は本年度に引き続き、年間継続して、その実態のは握の上に来年のようなことを考えてみたい。

- ア 家庭学習状況調査
 - イ 生活状況調査
 - ウ 家庭との連絡簿
 - エ 家庭学習ノートの作成

これらをもとにして、きょうの学習のレディネスを高め、定着化をはかるものにしたい。それには、個人個人の能力に応じて学習のめやすが立てられ、教科ではどんな方法で、どんな点に

注意して、どんな学習もをしたらよいかなどを明示し、具体的に表現した学習指導指針などを考えたい。

ところで、本年度実施した「学習の記録と生活の記録」の反省と、他の学習事項についての調査とを兼ねてアンケートをとって見たところ、次のような結果が出た。

＜家庭での学習の記録を実施しましたが、今後どうしたらよいと思いますか。＞

- 記録を続けたい。(229)
 - ・ 教師に相談にのってもらえるから 35
 - ・ いやでも多少学習しなくてはならないから 90
 - ・ 記録を見ることによって勉強に張りが出るから 89
 - ・ 教師のみならず親に理解してもらえるから 7
 - ・ その他 8
- 記録を続けたくない。(179)
 - ・ 記録を続けるのがめんどうだから 121
 - ・ 勉強がやりたくないから 16
 - ・ あまり勉強してないので、先生や親にわかってしまうから 17
 - ・ はずかしいから 4
 - ・ その他 21

以上のことから、記録をつけたいというものが全体の55.5%と半数を上まわっているが、記録を続けたくないという者のうち、めんどうだからという回答がその67%を占めているので、今後型式の簡略化と同時に幾種類かの様式を用意して、能力差や必要に応じて選ばせるなどということも考えねばならないと思う。今まで使用していたカードは1週間ごとのものであったが、さらに検討してノート形式などはどうだろうか。ノートはカードと違って離散するおそれもなく、それに常時必携することも可能となる。欲をいえば、本校で従来から実施してきた「努力のあと」も挿入し、また、「学習の記録・生活の記録」の後に保護者との連絡欄など設けてはどうかと考えている。以上のようなノートの構想が無理なら、ルーズリーフ式のものとし、カードを累積して自己の伸展をはかり、日々の反省を促すものとしたい。

今までいろいろ書きならべてきたが、本校ではまだ幼児の段階にしかすぎない。今後、全教師の共通理解の上に立ち、それぞれ試行錯誤をしながらも、少しでも本地域の生徒が自主的・主体的に家庭で学習し、それが学校での授業にもつながり、その個個人の学習がグループなどの学習の上で生かされていくことこそ、私たちの望みである。

とりあえず、来年度はこうありたいとの私見をまじえて、本校の実態を述べてみたが、今後努力して継続計画を立て、着実に伸ばしていきたい。

別表 1

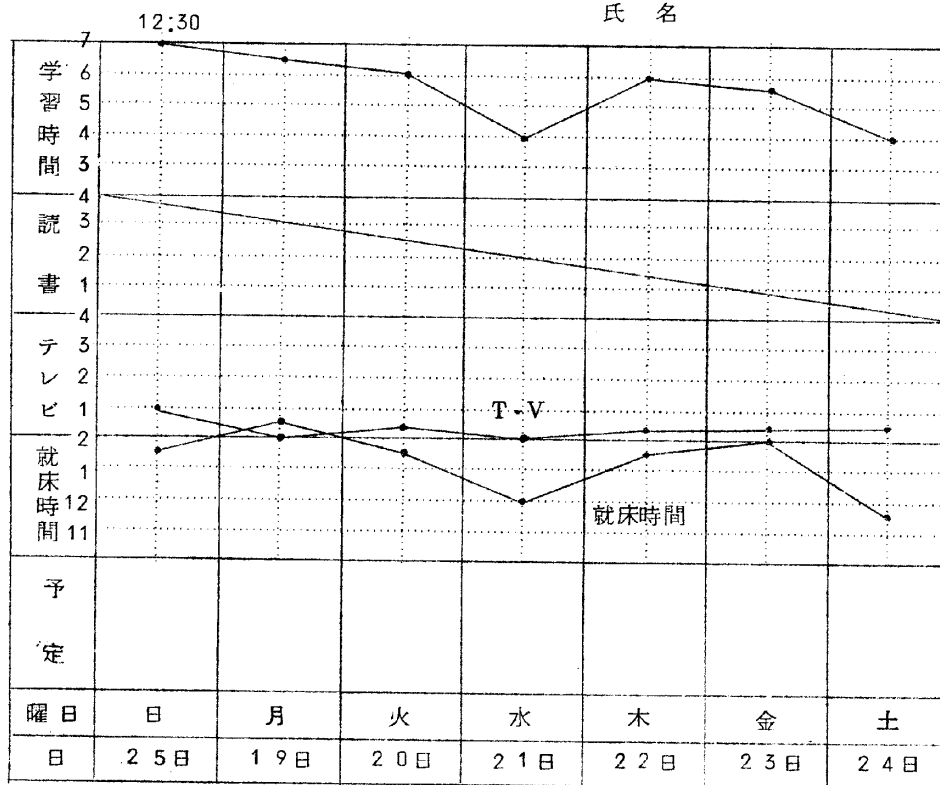
学 習 の 記 録

3年4組 氏名 飯塚 恵子
保護者

日	時 間 と 教 科									累 計
	国	社	数	理	英	音	美	保体	技家	
25 日	2:30	2:00		3:30	2:30	2:00				12.30
19 月	7:20	9:20	9:30	11:30	11:40	1:10	1:00			6.30
20 火	5:30	7:30	8:45	10:45	11:00	1:00				6.00
21 水	6:00	8:00	9:00	11:00						4.00
22 木	6:00	8:00	9:00	11:30	11:40	1:10				6.00
23 金	7:30	9:30	9:30	11:30	11:50	1:35				5.45
24 土	4:00	5:30	8:00	10:30						4.00
週累計	(7.00)	(5.30)	(13.00)	(3.30)	(14.15)	(0)	(1.30)	(0)	(0)	(6.27)

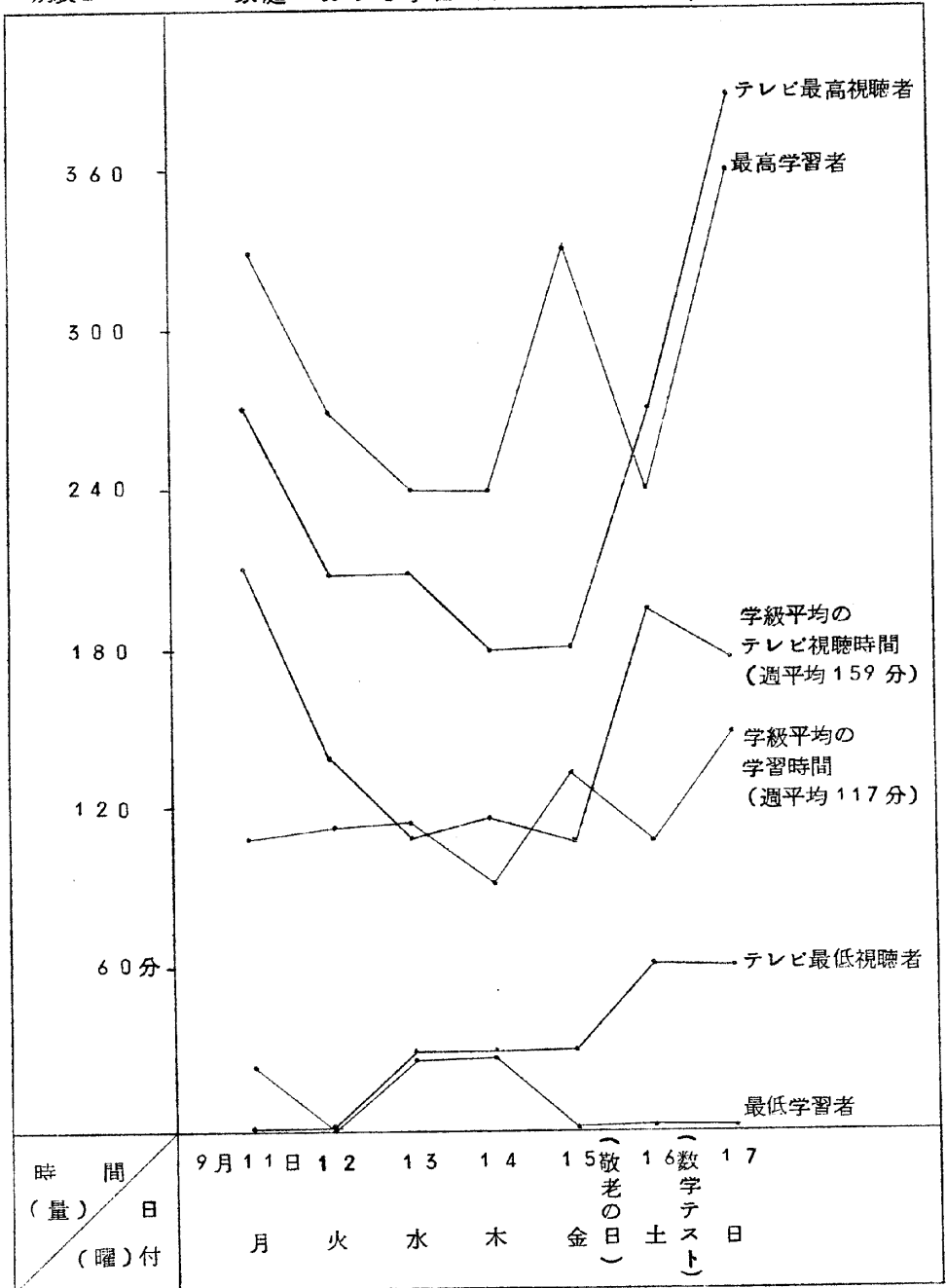
生 活 の 記 録

氏 名



別表2

家庭における学習とテレビ視聴の時間と量



(3年4組)